令和5(2023)年度　学校経営計画　各学年重点目標と達成方法

中学1年　2023年度重点目標		
項目１	①「学力向上に向けて」	
	目標	自ら学びを楽しみ、その学びをどう還元できるか考えることのできる生徒を育てる。
		基本的な学習習慣および生活サイクルを身につけ、自ら考え、行動し、さらなる向上心を抱くことのできる生徒を育てる。
		グローバル人材育成のためにも実践的な英語力を中心に、国語による自己表現力、数学による論理的思考力を身につける。
	達成方法	何のために「学ぶ」のか、その「学び」から得られたものをどう還元できるか、様々な場面でその大切さを伝え意識を持たせる。
		スコラ手帳（学習手帳）の書き方を定着させ、自分の生活サイクルを俯瞰させ、有限である時間の中でより何ができるかを意識させる。
		授業だけでなく、朝学習も通して、小さな目標の積み重ねを意識させ、学年全体として基礎力向上の機会を用意し、定着まで共に歩んでいく。
項目２	②「生きる力育成に向けて」	
	目標	「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉を大切にし、些細なことでも気付き、感謝し、言葉にし、周囲の人へ同じことをしてあげられる心を育てる。
		なりたい自分をイメージし、「そのためには」という気持ちを大切にし、そしてチャレンジできる勇気とチャンスに気付き逃さず掴める力を育てる。
		自分への思いやり、周囲への思いやりといった奉仕・公徳心を育む。
	達成方法	「してもらって当たり前のことなどない」ということを常に言い続け、周りの人の協力・気遣いのおかげで今の自分がいることのありがたみを意識させる。
		なりたい自分を日常的にイメージさせ、そのためのチャレンジを起こせば起こすほど、そのチャンスが現れることを意識させる。
		道徳教育やピア・サポート教育を通して学んだ知識を活かせるような機会を作り、豊かな心を育む。
項目３	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」	
	目標	ICTリテラシーを理解し、ICTを適切に活用する力を養う。
		開かれた学校のためにmanabaを活用して保護者と学校とが連携し、両者で生徒の成長をともに見守れるような信頼関係を築く。
	達成方法	ICT使用のルールを知り、SNSのリスク等も理解しながら、効果的な活用方法を体感させる。
		学校評価を実施し、取り組みについての改善・改革を行い、教育活動の向上を図っていく。
		manabaでの学年・学級通信発信を通して保護者に活動や情報をお伝えし、保護者会等で活発な意見交換を行い、質向上に努める。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各学年重点目標と達成方法

中学2年　2023年度重点目標		
	①「学力向上に向けて」	
	目標	自ら学びを楽しむことのできる生徒を育成する。自分の意見を言語化し、表現することができる生徒を育てる。
		基本的な学習習慣（英語・国語を中心に）をしっかり身につけ、自ら考え、行動できる生徒を育てる。
		地球市民を育む学習を進めていく。共感的コミュニケーションスキルを身につける力を育む。
	達成方法	様々な活動を通して「学ぶ」ということの意義を考え、深い「学び」から得られたものを周囲と共有し、周囲に貢献する喜びを体感させる。
		スコラ手帳の書き方を工夫し、逆算思考でのスケジュール管理からの成功体験を増やし、自信をつけさせていく。日常的にPDR（Prep・Do・Review）サイクルを意識させる。
		授業だけでなく、MMT・朝学習でも目標を意識し、準備して取り組ませる。各種検定の受験・各種プロジェクトへの参加を推奨し、学年全体として学習力向上の機会を用意する。
項目２	②「生きる力育成に向けて」	
	目標	よりよい社会の創造に貢献する人として生きていくために必要不可欠な基本的な作法・礼儀を身につける。
		基本的な生活習慣を身につけ、心身の健やかな成長を促す。
		自分自身を大切にするとともに、周囲にも寄り添うことのできる心を育てる。
	達成方法	礼法や茶華道などの授業を通して、社会生活を円滑に送ることのできるスキルを学ぶとともに、日本文化への深い理解と誇りを育む。
		挨拶、「日常の五心」、時間厳守、係や清掃等には責任を持って取り組むなどの姿勢が、対人関係において重要な役割を担っていることを日常生活で体感させる。
		道徳教育やピア・サポート教育を通して学んだ知識を活かせるような機会を作り、豊かな心を育む。活動後には振り返りを行い、自分の経験として蓄積させ、自己肯定感を高めていく。
項目３	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」	
	目標	ICTリテラシーを理解し、ICTを適切に活用する力を養う。
		manabaを活用して保護者と学校とが連携し、両者で生徒の成長をともに見守れるような信頼関係を築く。
	達成方法	ICT使用のルールを守り、SNSのリスク等も理解しながら、効果的な活用方法を体感させる。
		学校評価を実施し、取り組みについての改善・改革を行い、教育活動の向上を図っていく。
		学年・学級通信やお知らせなどでmanabaを積極的に活用し、活動報告・情報公開を進めていく。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各学年重点目標と達成方法

中学3年　2023年度重点目標		
項目１	①「学力向上に向けて」	
	目標	キャリア的な目標をイメージさせながら、自分は何のために学び、どのように社会に貢献するかという「学びの軸」を設計させる。
		教科学習だけでなく広い視野で自己研鑽のモチベーションを高く維持させ、高校進学とその先の大学受験を意識させる。
		具体的な検定などの目標を設定して、中学卒業時の英語・数学・国語の３教科の基礎学力を、誰一人取り残すことなく定着させる。
	達成方法	職場体験学習のような行事を学年で企画し、また社会で活躍している卒業生たちとの講演会もおこなうことで、学びのモチベーションを高める。各教科の授業や各種行事において「なぜ学ぶのか」ということを意識して伝え、探究的な思考、主体的に学ぶ姿勢を養成する。学年のLHRなどでキャリア教育を継続的に実施し、年度の最後に「学びの軸」のポスターセッションを実施したい。
		朝学習では妻中検定のような論理力やひらめきを必要とする問題を実施し、生徒たちの学びの力のベースアップをめざす。中高一貫校のメリットとして「高校0年生」という意識を早めに持たせ、大学研究やキャンパス訪問なども徐々に始めていく。
		大中小の目標を設定してスコラ手帳で見える化し、大学入学時点までの自分の到達目標からの逆算を意識させる。英数国のMMTにしっかりと取り組ませて3教科の基礎学力を定着させ、一定の「知識・技能」ラインに到達するまで継続して取り組ませる。
項目２	②「生きる力育成に向けて」	
	目標	中学最高学年として、下級生の模範となるような「元気で明るくさわやかな」学年を継続してめざす。
		顔が見える人との関わりだけでなく、初めて会う人との関わりや顔が見えない人を想像しながら適切に行動できる人をめざす。
		あらゆるものへのRespect（尊敬・尊重・大切に扱うこと）というのを常に意識させる。
	達成方法	元気な挨拶、ポジティブな「PEP TALK」の継続を、学年会、保護者会で周知し、生徒に関わる指導者・大人側の意識を統一する。
		沖縄の平和・環境学習旅行の事後学習として英語による沖縄ガイドブックの作成をおこなう。それをユネスコスクール大会や文化祭、Beyond Schoolでの活動を通じて発表しながら、社会への発信のしかたや人々の良い意味での巻き込み方を学ばせる。また、キャリア教育の一環として職場体験学習のような行事を企画し、多くの人と協働すること、多様性の中で共生することを体験させていきたい。
		近くで関わる人（家族、同級生、先輩・後輩、先生、学校職員）だけでなく、近隣の人や学校そのもの、社会を構成するあらゆるものへの感謝と敬意を持って行動できるように、日常の学級活動や行事を通じて「Respect」を啓発し続ける。
項目３	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」	
	目標	探究型授業を強く意識しながら、学力の三要素のうち「思考力・判断力・表現力」「主体的に学ぶ姿勢」を育める授業を引き続き展開する。
		manabaを活用して学校と保護者の連携を継続して行い、両者で生徒の成長をともに見守れるような信頼関係を引き続き保つ。
	達成方法	STEP２のCONSTRUCTを各教科科目で意識しながら、Beyond Schoolのコンテストや夏期短期留学、外部検定に向けて挑戦させるような授業展開を意識する。
		manabaで毎週末にコースニュースを発信して学校での学びの様子を保護者とシェアし、学年全体の課題を見える化して改善していく。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各学年重点目標と達成方法

高校1年　2023年度重点目標		
項目1	①「学力向上に向けて」	
	目標	基礎学力の向上と、毎日学習する習慣を身につける。
		自ら学ぶ姿勢を身につける。
		何事に対しても、失敗を恐れず一歩前に踏み出せるようなポジティブ思考を身につける。
	達成方法	生徒が自ら学ぶ姿勢を育てるために色々な企画を用意し、学年全体で学力向上を目指す雰囲気を確立する。
		常に、前向きな思考で物事が捉えられるように、得意科目や個々の生徒の強みを伸ばせるように指導する。
		全員に配布した能率手帳に、予定・学習時間とその内容・提出物の管理などを記録させることで、学習計画や時間の自己管理ができるようにする。
項目2	②「生きる力育成に向けて」	
	目標	基本的生活習慣の確立
		自ら課題を見つけ、自分で解決していく力を持つ。
	達成方法	基本的生活習慣の確立の1つである時間管理（朝の妻中タイム登校）に関して特に注意して指導する。
		自発的学習に向かう環境作りを行う。（様々なプログラム・放課後学習・夏期講習などを工夫する）
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」	
	目標	保護者対象の進路ガイダンスの充実
		学年通信や進路通信の充実
	達成方法	大学入試情報や学年の進路指導状況、模試の結果などについて保護者に伝えていく。
		脳の科学や心理学的エピソードを交えて、学習効率の上げ方を生徒に伝えていく。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各学年重点目標と達成方法

高校2年　2023年度重点目標		
項目1	①「学力向上に向けて」	
	目標	「自ら学ぶ」姿勢を育てていく。
		志望校のイメージを早めに固めさせていく。
	達成方法	朝の10分学習と週2度の放課後15分学習を行う。朝の学習では、MMTはすべて英語の小テストとし英語基礎力の向上をはかり、水曜日は現代文の用語と数学の問題を交互に行うことで、語彙力とともに社会人として必要な教養力の維持をめざし、金曜日は国語力向上のために、昨年度に引き続き文章を読んでもらう。この部分は学年主導で行うが、これ以外は放課後の15分学習と同様に自分で決めた教材を進めてもらう。自分であがいて学習することを求めていく。教材は学校や塾で出される宿題ではなく、自分で選んだものに限る。
		英語力向上のために、上記以外の曜日の朝学習の教材は英語関連のものとする。英語の「基礎学力」「4技能向上」は大学進学には必須である。とくに短い時間を有効に使うことは、これからの学習に必ず役に立つので、覚えて欲しいと考えている。
		目標が明確であることほど、モチベーションを高める。目標は状況に合わせて変化すべきものであるが、低い目標ではテンションは張れない。自分の目標とする大学を決めていくとともに、1つ上の偏差値帯の大学を目標にしていくことを求めていきたい。
項目2	②「生きる力育成に向けて」	
	目標	自立と自律を引き続きスローガンにしていく。
		GSTでの学習や旅行などを通して、さまざまなことを考え、進路の方向性を深く考えていく。
	達成方法	「ルールがあるから守る」ではなく、ルールのある意味を考えて行動できるようになってほしい。モラルを考えれば、当然やるべきではないことは分かるはずである。18歳成人に向けて、社会で恥ずかしくない考え方を持てるように、育てていきたい。
		高校2年生で確実に行いたいことは、具体的な大学選びである。そのためにはどのような道に進みたいのか、自分の口でしっかり話せることが大事だと考えている。OGによる講演会や大学の方を呼んで話を聞く機会などももっていく。また自分でオープンキャンパスへ行ったり資料請求をおこなったりして、大学調べをしていくことも重要となるので、保護者とともに進路を考えていきたい。
項目3	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」	
	目標	生徒向けの進路ガイダンスを時期に合わせて充実させ、保護者にもその内容とともに効果的に情報を提供していく。
		保護者会・面談・学校評価アンケートの結果は今後もフィードバックしていく。
	達成方法	『学年通信』は昨年度からmanabaのコンテンツに載せている。manabaの有効活用のために、コースニュース、スレッド、コンテンツの使い分けを今後もさらに改善していきたい。
		大妻中野の進路から発信されている資料は、manabaの「otsumanakano」のコンテンツに随時掲載されているが、ご存じない方もいらっしゃったので、『学年通信』や保護者会等での連絡などを通して、必要な情報が確認できるようにしていきたい。

令和5(2023)年度　学校経営計画　各学年重点目標と達成方法

高校3年　2023年度重点目標		
項目１	①「学力向上に向けて」	
	目標	進路実現のために必要な学力を養う
		将来を見据えて社会性・自立心を身に着けるための学習を実施する
	達成方法	与えられた課題をこなすことや、授業・講習に参加することで満足してしまうことなく、自らに課題を設定し解決するための学習を意識する。 塾頼みや参考書頼みの勉強から脱却するため、学校で自学自習の時間を増やすため、朝学習・放課後延長学習など学習機会の提供に努める。 入試問題に挑むための実力を養成するために、小手先ではなく応用可能な基礎学力を着実に身に着ける。
		自らが選択する大学・学部も含めて「なぜ」を追究し考察する力を養えるよう、キャリア教育や社会への関心を意識させる。志望理由書の作成なども受験のためだけでなく自らの人生を考える場として全員に機会を設ける。□
項目２	②「生きる力育成に向けて」	
	目標	他者を理解する力と社会への関心を育む
		自己理解、自己表現する力を涵養する
	達成方法	受験勉強という個人の闘いであればこそ協働性や他者の状況へ配慮する力が求められる。それぞれの進路や勉強方法を尊重し、全員が集中して勉強に取り組める環境を作りあげる。
		成人となる年に自分がどのような進路を選び、どのように社会に貢献できるのかを具体的に考えられる場を作る。進路ガイダンスや卒業生を招いての講演会などで未来の自分や他者の人生について考えることで自己理解へとつなげる。
項目３	③「学校教育環境整備と質向上に向けて」	
	目標	生徒・保護者と緊密な連携を図る
		ネットリテラシーの習熟を目指す
	達成方法	学年通信や各種ガイダンスの実施により、大学入試に関する情報や学校生活についての情報を定期的に公開し、細やかに連携をとる。
		SNSの危険性や功罪を理解し、「正しく使う」ためのICT教育を実践する。